

平成23年度 情報発信・交流促進事業
NPO・市民活動団体ヒアリング調査報告書

平成 23 年度 情報発信・交流促進事業 NPO・市民活動団体ヒアリング調査報告

【調査の目的・ねらい】

地域における NPO・市民団体による活動は、幅広い分野で展開され、福祉や環境、まちづくり等の担い手として活躍を見せている。

国立市では、市内の NPO・市民団体を支援する施策として、平成 13 年 7 月に「NPO 等情報連絡会」を立ち上げ、NPO 活動の拠点づくりに関する検討を経て、平成 16 年 4 月に「くにたち NPO 活動支援室（以下、支援室）」を開設した。以来支援室は、市内の NPO・市民団体の活動拠点として利用されてきたが、社会状況が変化していく中で、求められる役割も多様化してきた。

現在、インターネットの普及とコンピューター技術の発展に伴い、SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス、mixi、twitter、facebook など）の利用者増加し、情報を誰でも手軽に発信・取得できるようになった。そこで、これを活用して支援室の情報発信・収集力を強化し、さらに、様々な交流を促進することにより、市内 NPO・市民団体の支援を図ることとした。

そこで、支援室団体会員と非会員の市内 NPO 法人を対象に、自団体の活動状況や支援室へ求めることなどを知るヒアリング調査を実施した。

ここで得た内容を参考に支援室活用のしくみづくりや施策へ反映し、これからの団体・市民・行政をつなぐ中間支援組織の役割と機能を検討していく。

（ヒアリング調査データ）

【質問項目】

- 1、団体の運営、情報発信、団体間交流の状況、課題
- 2、支援室への意見
- 3、国立市への意見

【団体数】

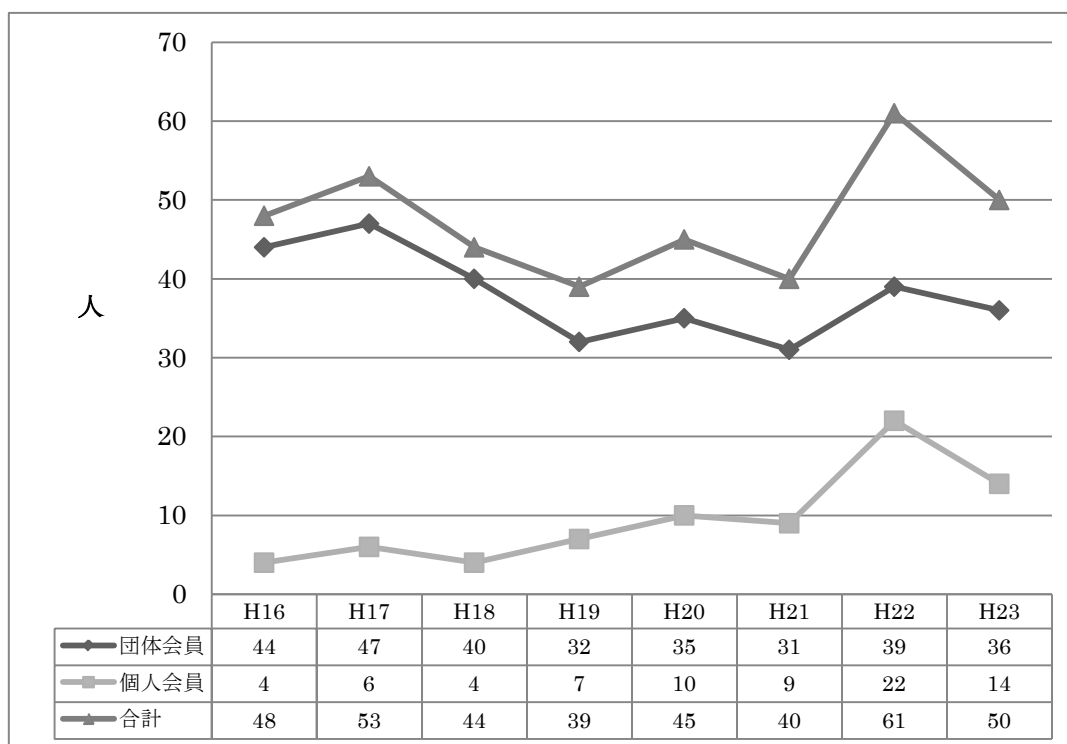
- 1、支援室会員 30 団体（全 34 団体中）
- 2、非会員 10 団体（全 31 団体中）

【支援室の現状】

開設当時（平成 16 年）からの会員数について大きな変化がなく、新規に会員登録する団体は少ない。原因のひとつに、これまで中間支援組織としての機能を市内団体や市民に上手く発信できていなかったことがあると思われる。例えば、現在の開室時間は平日午後 1 時から 5 時（木曜日のみ午前 10 時から午後 2 時）と短く、市民が訪れにくい状況にある。

一方で、毎週土曜日の「駄菓子やくにちゃん」や、個人会員が週 1 回程度開いている「パソコンなんでも相談（パソコン操作等の個人講座）」には、子どもをはじめ市民が多く集まる機会となっている。こうした開室に合わせて定期的に催しを開く、といった支援室を有効に利用、もしくは利用できる団体と連携できれば、市民が訪れる交流の機会を増やせる可能性はある。

■支援室会員登録数

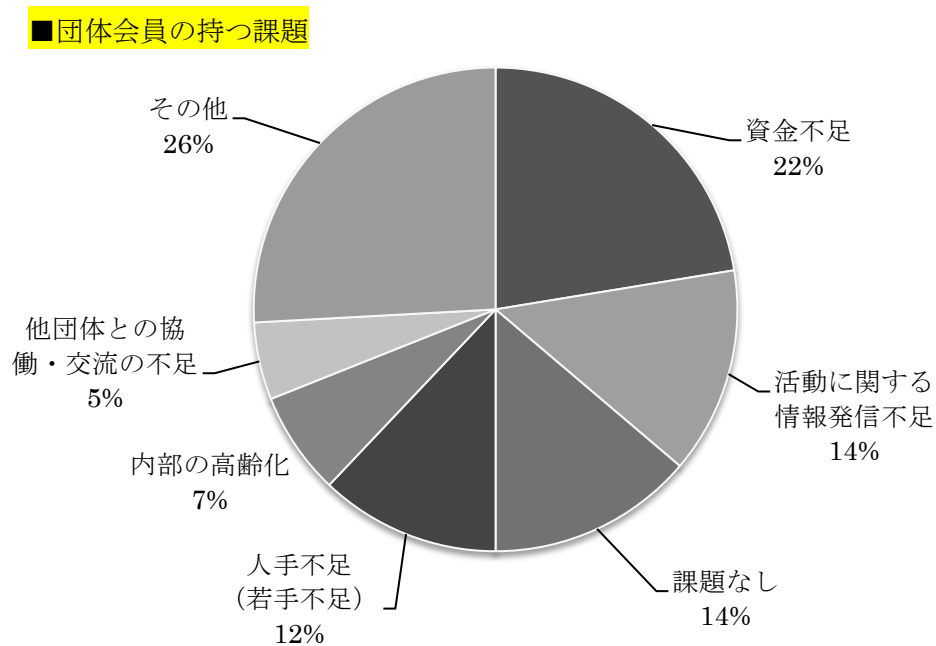


1. 支援室団体会員

【団体会員の運営状況と課題】

活動分野は、福祉や学術・芸術・スポーツ関係が全体の約40%だが、他にもまちづくりや子ども対象、市民サークルのようなものも多く、各々活発な活動をしている。しかし、運営状況は厳しいと回答する団体が多く、「資金不足」が22%、次に「情報発信不足」14%「人手不足／若手がない」12%となった。このような課題を抱える原因には、各団体の活動内容の周知ができていないことが関係していると思われる。一方で「課題なし」との回答も14%あり、その多くは資金・人手共に小規模で無理をしない運営体制をとっていた。

また、他団体や行政との協働への関心は高く、半数近くの団体が何らかの協働事業経験を持っていた。



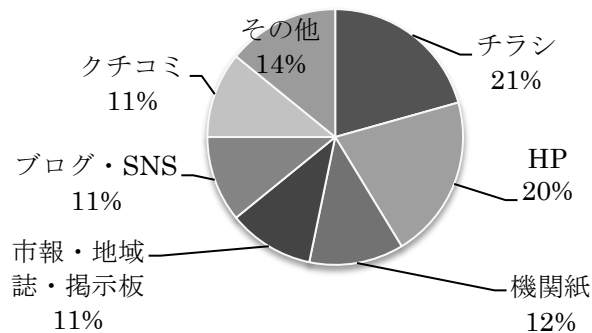
【団体会員の情報発信方法】

ホームページ等の web を利用した発信を行っている団体は、同時に紙媒体も活用していることが多かった。(web 利用団体の 90%)

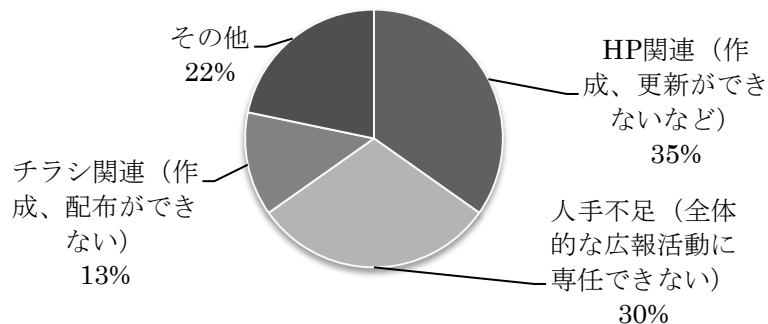
情報発信を全く行っていない団体は、活動の対象者や人数に限りがあるなどの理由で意図的に周知させていない場合が多い。現在は「発信したいができない」場合の団体に対する解決策として、支援室のホームページを改良し団体会員が活用できるようなしくみを検討している。

また、ブログ・SNS の利用については「既に利用もしくは利用したい」団体と「積極的に利用をしない」と回答した団体が双方とも 45%となった。理由はブログ・SNS を利用することで得られる効果の有無がはっきりとしないことだと思われる。

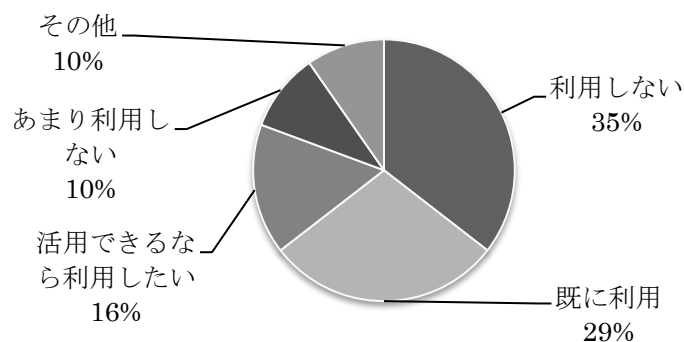
■ 情報発信方法



■ 情報発信に関する課題



■ ブログ・SNS の利用

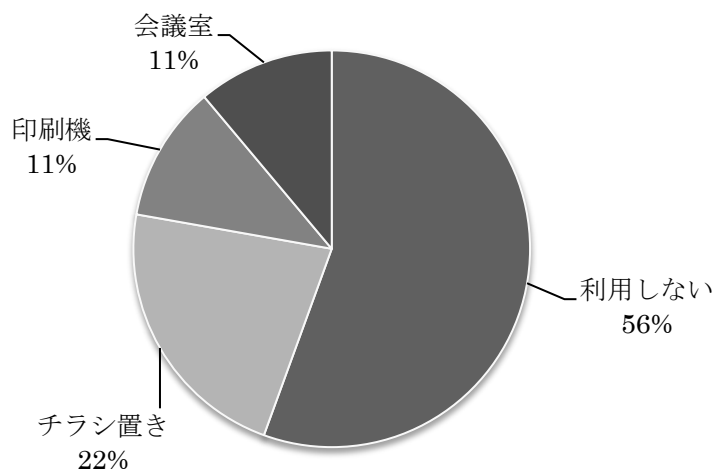


【支援室への意見】

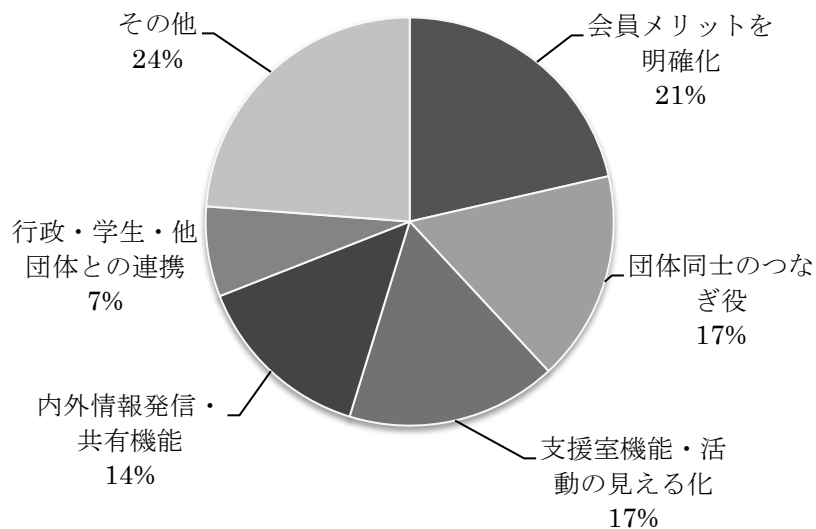
支援室を「利用しない」との回答が 56%と半数以上を占め、チラシスタンド、会議室の利用も少なかった。定期的に印刷機を利用している会員は若干いるが、「利用料が高いので使わない」との声も聞かれた。原因としては、置きチラシの効果が見えづらいことや会議室の予約システムが不便（限られた開室時間の中で来室または電話でのみ受付）なこと、公民館など市内に印刷機を安価で利用できる施設があることなどが考えられる。

また、「支援室会員になることのメリットを分かりやすくしてほしい」「団体同士をつなぐ交流の場をもっと作ってほしい」「支援室の機能を分かりやすくしてほしい」などの具体的な要望が多く聞かれた。

■ 支援室利用内容



■ 支援室へ求める内容

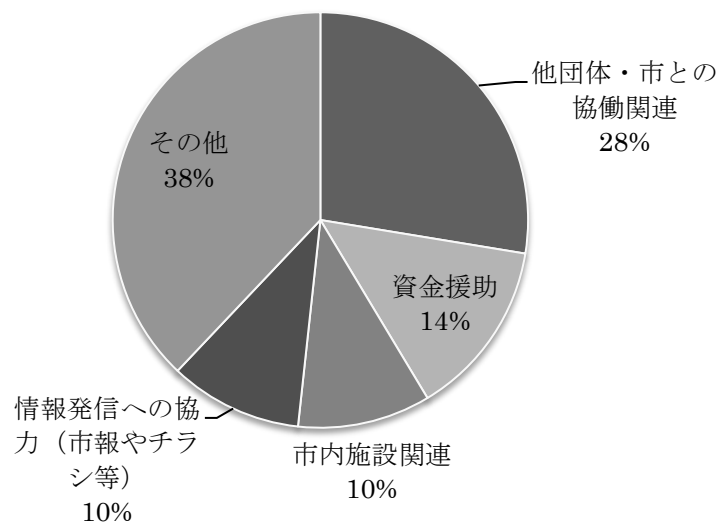


【国立市への意見・要望】

協働への関心の高さから、団体間交流の際の会場提供、または、その仕掛けなど協働に関連した要望や意見が 28%と多かった。次に、資金援助の要望が 14%と多く、市内公共施設関連が 10%と続いた。具体的には、学校空き教室の開放や施設使用条件の優遇などの意見が聞かれた。

こうした意見を参考に、今後は市内施設や資金に関連した情報提供をするなど市としての工夫が必要だと思われる。また、団体間交流の機会としては支援室活用のしくみから検討していく必要がある。

■ 国立市への意見・要望

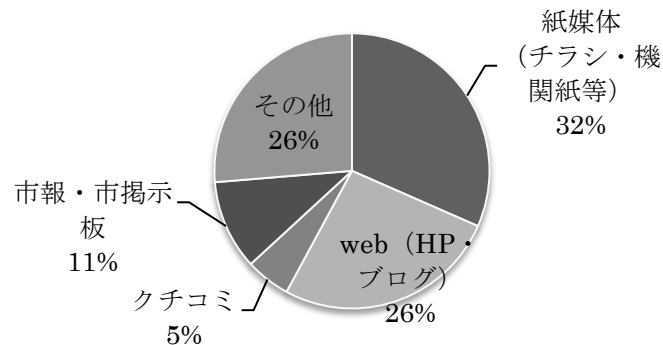


2. 支援室非会員の市内 NPO 法人

【活動内容情報発信の現状】

紙媒体の情報発信が 32%と多いが、そのほとんどが web（ホームページ・ブログ）の情報発信と併用している。また、セミナーの開催や子ども対象の活動をしている団体であれば市内小学校に出向いて告知するなど現場で周知する団体も半数近くあった。

■活動内容等の情報発信



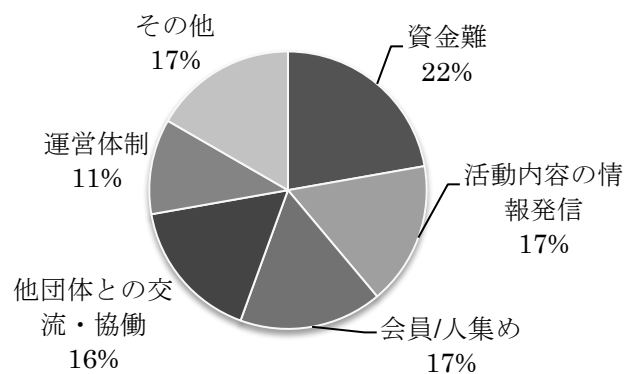
【団体の課題】

資金難との回答が 22%と最も多かったが、活動が全く行えないという状況ではない。

「活動自体の周知ができていない」「実働人員や会員不足」と回答する原因には、活動内容の情報発信不足があると思われる。

他団体との交流・協働への関心は高く、交流する機会が欲しいとの要望も聞かれた。

■団体の課題

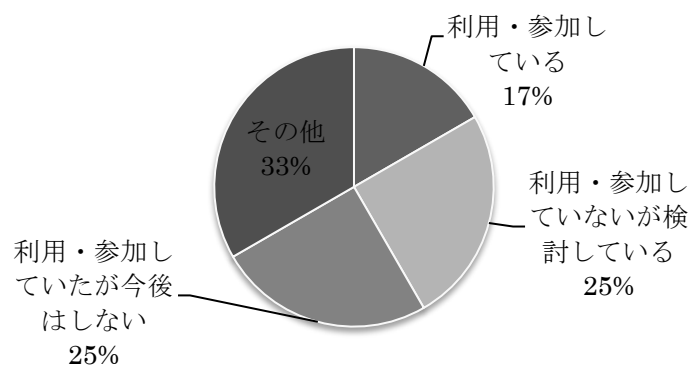


【支援室利用と意見・要望】

支援室の存在は 80%の団体が知っていた。しかし、支援室の機能や入会するメリットが見えないことが継続利用につながらない原因だと思われる（利用・参加していたが今後はない 25%）。

一方で参加を検討している団体も 25%存在し、支援室の機能やメリットをより分かりやすく伝えることで会員数や利用率が上がる可能性はある。例えば、支援室から運営のアドバイスが得られたり、交流会に参加することで市内団体とつながりを作られたりといった具体的機能・メリットの見える化が必要だと思われる。

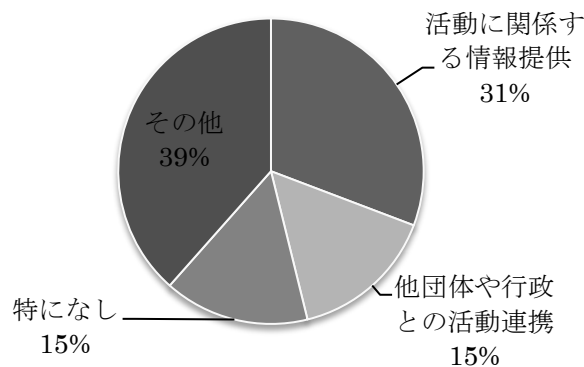
■支援室の利用・意見



【国立市への意見・要望】

活動に関する情報の提供を希望する団体が 31%と最も多く、他団体や行政との協働を希望する団体は 15%であった。助成金の要望は少なく、自団体の活動内容に直結した具体的な要望が多かった。

■国立市への意見



3. まとめ

今回ヒアリングを行って分かったことは、利用メリットが見えないことで支援室を利用・参加していない団体は少なくないことである。これは、登録会員についても同じことが言える。今後は、支援室の機能やメリットを分かりやすく示したり、新たに作るといった工夫が必要である。

また、他団体や行政との協働に積極的な団体は多いので、支援室が行う交流会・イベントなどに団体同士がつながるきっかけとして、多く参加してもらうよう広く呼び掛けを行えば効果的である。

【要望・課題に対して、本事業（情報発信・交流促進事業）で実施したこと】

1、情報発信 「支援室ホームページのリニューアル」

これまでの支援室ホームページでは、団体の活動情報を十分に発信できていなかったため、ホームページ全体のデザインをはじめ下記の機能を追加した。

- ・会員自身が団体の情報を更新できるシステム
- ・トップ画面に SNS で流された情報が自動的に流れるシステム
(国立市に関連した情報が流れる)

また、今後は随時便利で使いやすい機能を検討し、必要であれば追加していく。

2、交流促進 「団体間・市民との交流の機会を増やす」

Twitter 講座（全 3 回）、NPO 代表者による団体運営・立ち上げに関するセミナー、映像制作講座（全 2 回）を開催し、技術や運営ノウハウを得るとともに NPO 関係者や市民が交流できる場を提供した。

3、その他 「支援室を利用しやすい空間に」

支援室に大型モニターとパソコン、その他 IT 機器を導入。モニターはプロジェクターのようにパソコンからデータを表示できるようにした。

また、事務スペースと会議スペースをパーティションで分け、事務員と利用者が気兼ねなく作業できるような空間づくりを行った。

※今後は SNS や支援室ホームページの情報更新操作、活用法、モニター利用の周知などを定期的に会員へ発信していく必要がある。

【支援室に期待する機能】

■支援室の機能

- ・web や会員への定期的なヒアリングなどから国立市内の NPO 等の活動状況や協働事業の情報を収集、発信。
- ・団体同士、市民をつなぐ交流機会の提供。
- ・市と市民（NPO・団体）の連携情報を集約し、より効果的な協働のための施策へ反映。

また、上記の機能を活用できるものにするため、国立市としては、

- ・支援室への情報提供と支援のためのサポートを継続
- ・支援室への必要情報の提供
- ・支援室の機能や活用方法の情報を市民へ向けて発信

を行い、これにより団体・市民・行政が連携を取り、地域の課題解決や活性化に向けた施策を検討していきたい。

